

令和元年度

事務事業評価表 A (平成30年度の実績評価)

記入年月日
平成 31 年 4 月 17 日

事務事業名: いばらきの森普及啓発活動支援事業. 事業区分: 新規/継続, 新規補助. 事務事業No: 040105000995. 所属課: 農林課. 政策体系: 総合計画の施策名 O401 農林業の振興. 予算科目: 01 06 02 01 02 00 林業総務事業.

法令根拠: いばらきの森普及啓発活動支援事業費補助金交付要項

(1) 事務事業の概要. ①事務事業の概要 (事務事業の全体像): 茨城県の森林湖沼環境税活用事業の実績や成果及び森林・林業の重要性などを県民に対して広く情報発信し、県民協働による森林づくりを推進する. ②担当者が行う業務の内容・やり方・手順: 内示⇒補助金交付申請⇒補助金交付決定通知⇒備品等の購入⇒PRの実施⇒実績報告書作成⇒補助金交付確定通知.

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

Table with 5 main columns: ①手段 (担当者の活動内容), ④活動指標 (活動量を表す指標), 単位, 29年度 (実績), 30年度 (実績), 01年度 (計画), 02年度 (目標), 03年度 (目標). Rows include: 森林湖沼環境税のパンフレット等の配布部数, 茨城県民 (PRイベント参加者), ③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか), ⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標), イベント参加者で森林湖沼環境税を認知した者の割合.

(3) 投入量 (事業費) の推移. Table with columns: 29年度 (実績), 30年度 (実績), 01年度 (計画), 期間限定総投入量. Rows include: 国庫支出金, 県支出金, 地方債, 使用料・手数料, その他, 一般財源, 事業費計 (A), 正規職員従事人数.

事業費の内訳. Table with columns: 30年度事業費 実績 (千円), 01年度事業費 予算 (千円). Row 11: 11 需用費 250.

(4) 当該年度の実施内容. Table with columns: 01年度の事業内容, 02年度の事業内容, 03年度の事業内容. Includes a note: ※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する. List: 主要事業, 市長マニフェスト, 未来PJ事業, 合併建設計画事業.

事務事業名	いばらきの森普及啓発活動支援事業	事務事業No.	40105000995	所属課	農林課
-------	------------------	---------	-------------	-----	-----

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? 森林湖沼環境税の意義、税活用事業の実績・成果などを住民へ広く情報発信し、住民と行政による共同の森づくりを推進する。 平成28年度より事業を開始したが、平成29年度は県へ要望を提出したものの採択されなかったため事業実施に至らず。
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか? 特になし。
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容 終了

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目

目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 茨城県で徴収している森林湖沼環境税の広報活動であり、適正である。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 茨城県の森林湖沼環境税が財源であり、県民への広報活動のため、妥当である。
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 平成30年度は山桜の苗木・エコバック配布及び箸作り体験を行ったが、オリジナルコースターの配布や木製椅子作り体験など、PR内容の見直しを図ることで、県民が森林湖沼環境税に深く興味・関心を持つことができる可能性がある。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 森林湖沼環境税に関する情報発信が少なくなる。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名 <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 特になし。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 補助金額が事業費のため、これ以上の削減はできない。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 森林湖沼環境税の還元であり、公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) PR活動を通じて、県民の森林湖沼環境税に対する理解を深めることができた。
(3) 今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要) コスト削減 維持 増加 成果向上 維持 低下
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 PR内容を再検討することで、更に普及啓発の効果を高めることができる。	(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 ⑧ コスト削減優先度評価結果

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価 課長確認後の評価 A A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合) 確認欄 確認
--	---